

YAMAHA NEWS NO.85

ヤマハニュース '70 **7** JUL.



大自然を思いっきり走ろう!

ヤマハトレールランド

新規需要を開拓する ヤマハ原付免許教室を開きましょう

夏休みのシーズンが始まります。このときを待ちに待って、運転免許をとろうという若い人たちがたくさんいます。ヤマハ原付免許教室をひらいて、新しいお客さまをお店におちかづけください。お店の業積をさらに大きく飛躍させる基礎を積極的に作りましょう。



— 新しい二輪車時代を築くヤマハ —

新しいスポーツレジャーの“場”

ヤマハトレールランド

各地に誕生

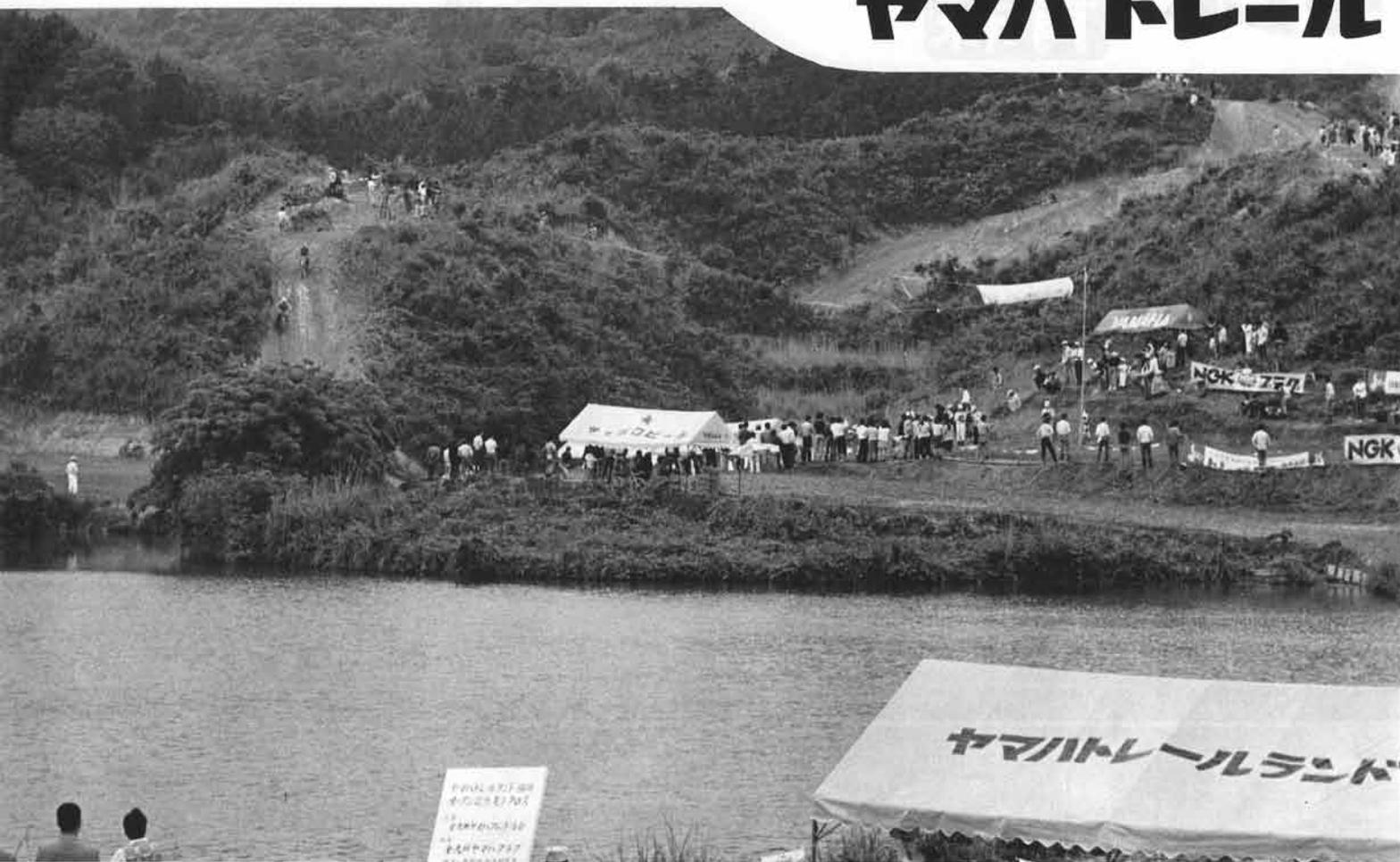
ヤマハトレールランド

安全走行のための基礎テクニクから、オートバイ本来の性能を楽しむ高等テクニクに至るまで、正しい運転操作を学ぶトレール教室は、全国各地で多大な反響を巻き起し、好評のもとに三年目を迎えています。このトレール教室の卒業生をあつめて、大自然を走る“場”、ヤマハトレールランドが各地で誕生し、新しいスポーツレジャーとして若者たちの注目をあつめています。

ここに各地で、たいへんなにぎわいをみせているヤマハトレールランドの動きをグラフでご紹介しましょう。

「新しい二輪車時代を築くヤマハ」の行動的な姿勢が、ここにたくましくみられます。

ヤマハトレール



▲お母さんに連れられて、大喜びの坊やたち



あつまった若い人たちは、互いにライディング・テクニクを評価しあって、技術の向上をめざす。



は、さらに第二、第三の「ヤマハトレールランド」づくりが急ピッチですすめられています。

また別に、中国地区では山口県宇部、善和の二カ所が、また関西、中部、関東の各地区でも、今シーズン中にぞくぞくと「ヤマハトレールランド」が建設されています。



ウィークデーのある日、きょうも熱心なお客さまがトレール走行を楽しんでいた。



残雪をしりぬぎ、「ヤマハトレールランド青森」のオープンにあつまったトレールマンたち



お店の業績もグリーンとアップしました。赤川さんと奥さまのセツ子さん

お客様も、お店も 大きくジャンプ

ヤマハトレール車の出現は、まずアメリカにおいて新しいスポーツレジャーを誕生させましたが、モータースポーツの急速な発展は世界的な傾向で、もとより日本においてもきわめて顕著な動きを示しています。

その一つは、すでに社会的にも広く認識されているトレール教室ですが、モトクロスの盛んな東北地方では、二輪車の正しい乗り方が基礎から学べるトレール教室の人気はとくべつ高く、若い人に大受けです。

そして、このトレール教室の集大成の場として、まだ雪の残る四月五日に、ヤマハスポーツ店・赤川モーターさ

ヤマハトレール



さあ、エンジンをとめて……。だれがもつとも
 確実なテクニクをみせるか、これからが本番



丘を越えると、ほらこの通り広
 々とした場所がトレール走行を
 満足させてくれるのです……。と、
 ヤマハスポーツ店・赤川モータ
 ーズのご主人・赤川福松さん。

このオープンを開きつけて
 駆けつけた参加車は延べ二
 ○余台。二度、三度のテクニ
 ックの反復でみごとジャンプ
 の高等テクニクも身につけ
 たお客さまは大喜び。また赤
 川モーターズさんでは、この
 「ヤマハトレールランド青森」
 のオープンで、一カ月になん
 と七十台のヤマハを売るとい
 う、お店の業績もすばらしい
 ジャンプぶりでした。

積雪一メートルを越え、山
 間部は二メートルしかいとこ
 ろもありましたが、これはブ
 ルドーザーを入れて排除し、
 自由に走れるコースを確保し
 ました。

オープンしました。
 積雪一メートルを越え、山
 間部は二メートルしかいとこ
 ろもありましたが、これはブ
 ルドーザーを入れて排除し、
 自由に走れるコースを確保し
 ました。

の協力で青森県上北郡野辺
 地町・国道四号線沿いに「ヤ
 マハトレールランド青森」が
 オープンしました。

ランド盛岡

「運転技術をみがき、無事故でオートバイを
楽しもう」と、「ヤマハトレールランド盛
岡」のオープンを祝って、みんなで万歳。



みんなの視線を一身にあつめて、ちょっと固くなったかな……。



フワーツ、汗かいたった——柴波チャレン
ジャーの阿部進さん。



ほんと楽しいナ——片平邦彦さん（岩手県二
戸郡安代町）はD.T.I.のほか、通勤の足にR
T.I.も持っているトレールファンだ

うちの地区にも是非 とお客さま

こちら山形県は盛岡市外の丘陵地八木田に「ヤマハトレールランド盛岡」が、五月十七日にオープンしました。わらびやぜんまいなど、山菜の豊庫ともいわれる丘陵地帯を十萬平方メートルにわたって、二輪車の安全運転テクニックの修練の場として開放したもので、斜面を右に左に、逆バンクも取りいれた本格的なコースがつくられ、トレール教室の会場ともなるスタート附近の広場からは、岩手山の美しい姿が間近かにみられます。

オープンには、近在のヤマハ販売店さんをはじめ、モータースポーツを愛好するクラブの人たちが多数つめかけ、好天のもとを縦横に駆けまわる姿が印象的でした。参加者のひとり、ヤマハスポーツ店・盛岡メイト商会の

ヤマハトレール



ワイワイ、ガヤガヤ……。みんな笑顔で心から楽しそう。トレールランドは若者たちの健全なスポーツレジャーの場だ。



▲花巻SSSクラブのみなさんと桜田モーターズの桜田ご夫妻（うしろのお二人）

◀盛岡メイト商会のご主人、阿部弘志さん

ご主人、阿部弘志さんは、ひたひたに汗をかべてお客さまの盛岡Yスポーツのメンバーと腕を競えば、花巻から駆けつけた桜田モーターズさんでは、ご主人の桜田耕司さんについて奥さまの寧子さんが、花巻SSSクラブのみなさんの仲間に加わって和気あいあい、また柴波町からは古館商会さんを根拠地とする柴波チヤレンジヤーのみなさんが、そろいのヤマハハッピーを着込んで巧みな走行テクニックをみせていました。

そして、お客さまがたの感想は、ただ一言、素晴らしい。遠方から参加した人も異口同音に、うちの地区にもせひせひトレールランドをつくって欲しい。とのことでした。

若いお客さまとオートバイ談義に花を咲かす……。平野さんにとって最高に楽しいときだ



静岡県磐田市 平野商会さん

若さで勝負

お客さまも若人が中心

「若い人たちだけのお店じゃないよ」と、年配のお客さま方から苦情が出るくらい、若いお客さまたちで賑わっているお店があります。

静岡県は浜松、国道一号線沿い、ヤマハ磐田工場のすぐちかくにお店をかまえる平野商会さんです。

ご主人の平野勝さんは今年二十七才。若さが溢れるばかりで、行動的な若いお客さま方からは「まるで兄さんみたいな人」と、頼りにされています。

ウデを生かした

ヤマハのお店で出発

平野商会さんの出発は昭和四十一年十二月。ヤマハ・テラーで働いていたウデと貯金を全額投じての開店でした。

最初の頃は、「昼は修理、整備に追われ、夜は夜で近在のお客さまへ外交にと東奔西走、からだの休まるヒマもなかった」といいます。しかし、それもいまはなつかしい思い出とか……。

若者でお店を一杯に

するのが夢でした

スタートからの二年間は、ただ忙がしく、若さにまかせてカムジャラに仕事をこなしてきました。しかし少しでも若い方々がお店へ立寄れるように、内外装には気を配ったものです。「若い人たちの支持が得られなければ、これからのお店は大きな発展がのそめない」、それがお店を開店するときからの平野さんの信念

若者の集まるお店



改装前

こんなに立派になりました

改装後



でもあったからです。
お店の順調な伸びにつれて、平野さんの心には一つの大きな夢が芽生えてきました。それはオートバイ、とりわけヤマハオートバイを愛する若者を集めての「スポーツクラブ」の結成です。

大型車時代を迎えて

念願のクラブ誕生

D T I が発売されてからというもの、平野商会さんに顔を見せる若い人たちは日増しに多くなってきました。ヤマハトレール、ヤマハスポーツのすぐれた商品揃えと、平野さんの気さくな人柄が、若い人たちの気持ちをとりえたからです。

若いお客さま方は、互いに仲間を誘いあつては、気軽に平野さんのお店に立寄り、オートバイ談義に花を咲かせて時を過しました。そして、待望の六五〇X S I が入荷するにやんで、若いお客さまたちの間からクラブ結成の声がかつたのです。平野さんの夢は、こうしてお客さま方の希望で果されました。

お店もスポーツ店と

なりました

新設のクラブは「Y S M イワタ」といい、会員は十七名。平均年齢十九才という若さ溢れるクラブです。

このクラブに、平野さんは相談役として加わっています。運営はクラブ員、つまりお客さままかせというわけです。「これほどまでに、若い人たちが動いてくれるとは思わなかった」、というのは平野さんの嬉しい本音です。

クラブ運営が自主的に行なわれることによって、平野さんの心にもう



お店の改装時、自からさしずする平野さん



ビッグマシーンがずらりとならんだ遠乗り会の出発前



フェリーの上では、大休止

YSMイワタの活動も、シーズンを迎えて活発となりました。四月五日には第一回の遠乗り会が伊豆富士見ランドへのコースで行なわれ、つづいて五月二十四日には第二回目、伊勢・志摩巡りで実施されています。

新装のお店の前に、十一台のXSH-1をはじめ、ずらりとそろったヤマハスポーツ、ヤマハトール群はさすがに圧巻です。

クラブの活動も 活発になりました

いつもは、経理事務のほうで活躍している奥さまも、生れかわった新しいお店に、すっかりご満悦です。そして、ご主人の平野さんも、これでお客さまにも心から喜んでもらえる、さすがに嬉しそうでした。

この五月二十日には、内外装ともヤマハ一色、新装のヤマハスポーツ店・平野商会さんほめてたく開店の運びとなりました。

いつもは、経理事務のほうで活躍している奥さまも、生れかわった新しいお店に、すっかりご満悦です。そして、ご主人の平野さんも、これでお客さまにも心から喜んでもらえる、さすがに嬉しそうでした。

クラブと新しいお店 強力な二本柱です

平野さんの若さとバイタリティーは、お店をかまえて四年目にしてヤマハスポーツ店をつくりあげたことでよく分かります。

一つの夢が生れました。それは心からオートバイを愛好、しているお客さまに、お店を開放するということでした。勤めを終わって、仲間といっしょに時のたつのも忘れてオートバイについて語りあう若いお客さまをまじかに見て、これはぜひともやらなければならぬと固く心に誓ったものでした。



▲2回目のツーリングでは、すっかりイタについての感じ

お店の中にヤマハがギッシリ、大型車は早くも予約済み



ハスポーツ ヤマハスポーツ

Y S M イワタのモットーは交通安全、したがって遠乗り会も、左側にきちんと一列にならんでの行進で、実にきれいなものです。

先頭は会長の鈴木さん、最後尾に平野さんがつきます。平野さんの細かい配慮は行く先々で発揮され、クラブ員も大船に乗ったように安心して走行を楽しんだものです。

夏にはオートキャンプも予定しています

心ゆくまでツーリングを楽しんだ会員たちと、新装のお店で語りあう平野さん。その表情は、念願のスポーツクラブの結成とスポーツショップとしての発足の二本柱が出来たことで、喜びがいっぱいです。

「夏には北陸方面へ二泊三日のオートキャンプを企画しているんです」と、そばで会長の鈴木さんが今後の計画を話してくれました。

平野さんが、「お店のほうもこれでひとまず落ちつきました。こんどは裏に修理工場をつくってみなさんのご期待にそいたいと思います」といえば、鈴木会長は「クラブの中にトレール部みたいなものをつくり、モトクロスなんかにも出てみたいですね……」と、ますます意気盛んなところをみせています。

明るいお店の中で、若い人たちがオートバイ談義に花を咲かす、きょうの平野商会さんです。

オートバイの性能

オートバイも商品である以上、かたちがよく、塗装・メッキ類がきれいであるという、外観上の「よさ」も大きなポイントとなりますが、なによりも重要なことは、「走って具合がよい」というものでなければなりません。この走って具合がよいということが、一般には「性能」という言葉でいいあらわされているもので、これには「動力性能」と「運動性能」として「耐久性能」とがあります。

動力性能とは、オートバイの動力と走行抵抗とによって定められる性能のことで、スピードが早いとか、加速がよいとか、登坂力がつよいとか、燃料消費量が少ない、ということ、運動性能とは、動力に関係なくオートバイが運動するための性能で、操縦しやすいとか、安定性がよいとかがこの範囲に含まれます。耐久性能とは、簡単にいえばこれこれにすぎ、長持ちする度合と違ってよいでしょう。

そしてこれら「性能」の中には、数字で表示しやすいものもあれば、数字だけでは表わしにくいものもあり、さらにはお互いに相反

する要求を満足させねばならないものもあるなど、非常にむずかしい問題を含んでいるのです。

たとえば、最高速度や加速性能などは数字で表示できません。また安定性は数字で表示できません。また安定性をよくすれば、操縦性もよくなるというものではないのです。安定性がよいだけに、右に左にと変化できにくくなるともいえるのです。もっと簡単にいえば、馬力を大きくしたいが、燃料消費量は増したくない、重量は軽くしたいが強度はさらに高めたいなど、みな相反する要求をもちあわせたものなのです。

また性能の良否については、車の性格、すなわち設計のネライ、あるいは使用条件に



よってその評価は大きく変わってくるものなのです。ここにモベツトはモベツトとして、スポーツ車はスポーツ車としての「性能」が追求されるわけで、いろいろな車種がつけられるわけです。

JIS（ジス＝日本工業規格）による自動車性能試験法では最高速度、加速、登坂、燃料消費率、惰行、ブレーキについてテストすることになっており、これらの性能がカタログなどに表示されます。お店のみなさんとしては、お客さまの使用目的にあった車種を慎重に選定してあげると同時に、数字には表わされない性能に注意の目をむけることが大切なことを説明してさしあげましょう。

ヤマハ車の特長についていえば、デザインはGマークを業界最多の成績で受賞しているほか、カラーリングにはとくに定評があり、また数字では表わされない性能、操縦性とか安定性、さらには耐久性で群をぬいた性能をもち、技術的にも、ロータリーバルブやオートルーフ、5ポートなど、世界で真先に実用化した高度な設計が施されており、あらゆる角度から見て第一級のオートバイ、モベツトであります。



軽快に!豪快に走ろうツーリング!!



お揃いのトータルルック、全員の気持まで揃えます。



空はつきめけるように高く青く、山は目にしみるような緑を、そして海は広大な姿を我々の前に現わす。大自然の美しさを心ゆくまで楽しめるオートスポーツ、ツーリングの味わいはこんなところにあるのでしょうか。日頃気のあった仲間と、あるいはスポーツクラブの行事として、列をなして走る豪快さは、オートバイファンのおあなたにはおわかりになると思います。これからは絶好のシーズン/スポーツ教室の一環として、あなたのお店でも素晴らしいツーリングを企画して下さい。

Y.S.M.イワタ・スポーツ・クラブ



青い空、白い砂、広い海、潮の香りのウマイ空気は、若者のエネルギーをよみがえさせる



ライディングフォームも立派なもの！うまいからこそ、交通安全が守れます。

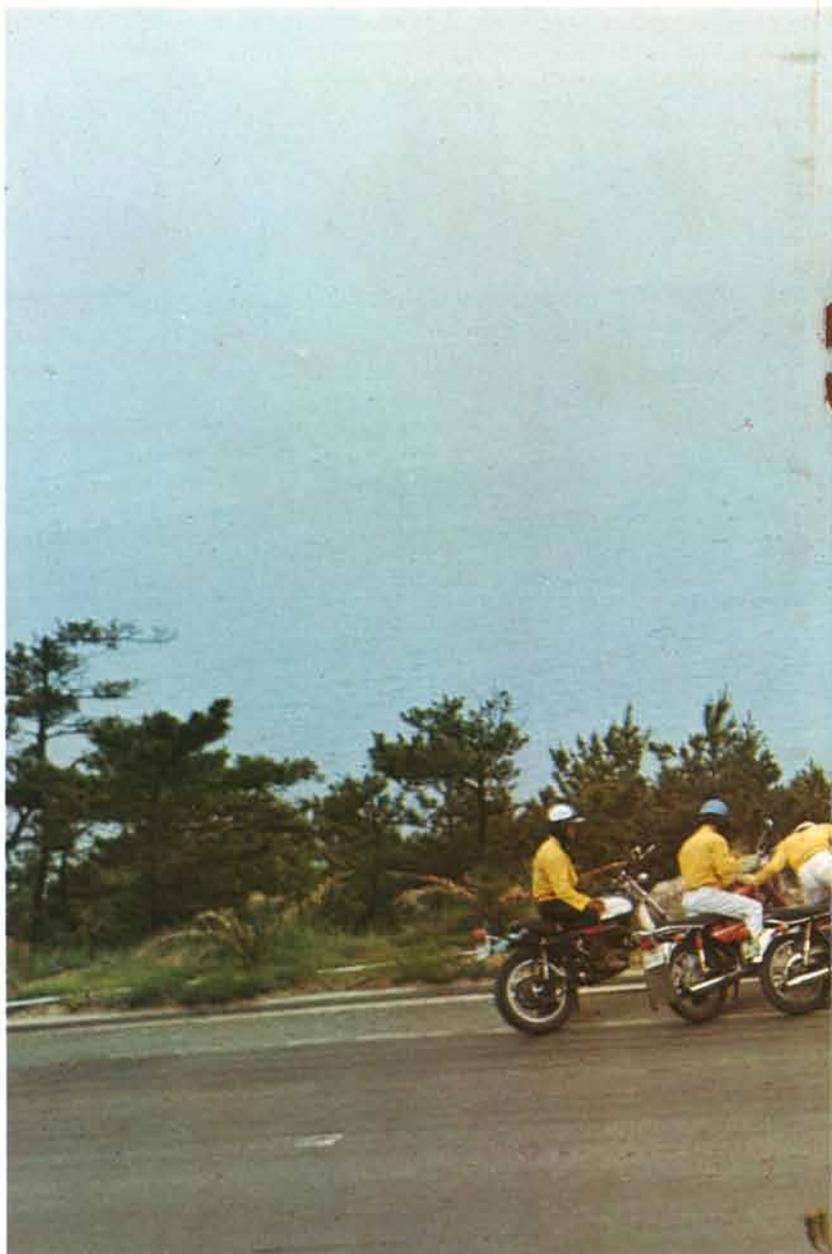
今回のツーリングは、静岡県磐田市にある平野商会さん主催によるY・S・Mイワタスポーツの第2回ツーリングをカメラ・ルポしてみました。平野さんところのスポーツクラブは、今年の一月に出来たばかり、総勢十七名、平均年齢十九才という若さに溢れるグループです。そろつてのヤマハファンで、今回のツーリングも650ⅩSⅩを始め大型スポーツ車ばかり十一台、途中の安全を充分考え、伴走車も、修理工具、救急箱を持って走ります。若さあふれる仲間のことですから、先導車はクラブの会長さん、後方は顧問役の平野さんが固め、無理な運転をしないよう万全の態勢をとって走ります。

コースは、午前六時お店の前を出発、磐田から国道一号線を下り、伊良湖でフェリーポートに乗って鳥羽へ、夫婦岩、二見ヶ浦を経て伊勢神宮で昼食。午後は伊勢志摩スカイラインで思いきり走りを楽しみ、鳥羽港から再びフェリーポートで伊良湖へ。

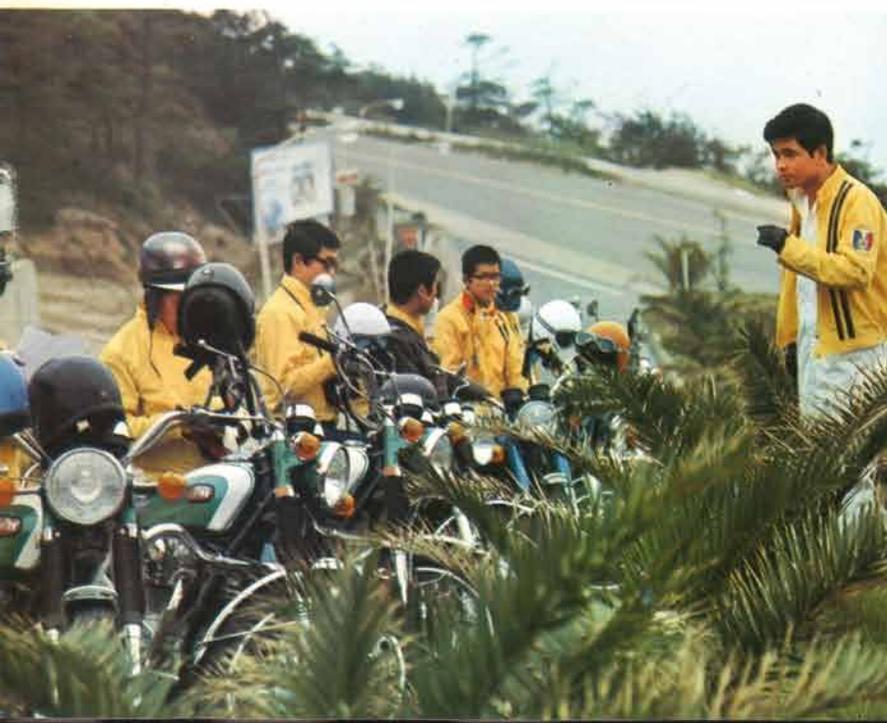
交通安全をモットーにしているこのクラブは、決して無理をせず、一列に並んで走るその姿と、快いエクゾーストの響きと、道行く人々の羨望のまなこを背に受け、行楽帰りのマイカーラッシュもなんのその、夕暮の一号線をスルリと抜けて、夕方六時には全員揃って無事、一五〇kmのツーリングを終えてきました。疲れた顔ひとつみせず、若者たちは、また明日からの新しいエネルギーをその胸に秘めながら、愛車の整備に夢中になっていました。



フェリーポートを利用するコースは変化にとんで、ツーリングが倍楽しくなるようです。



伊勢神宮の河原で、お弁当をひろげます。ヤマハのパラソルがこんな時にも役立ちます。



さあ出発だ！午前6時日曜日の朝、町はまだ深い眠りにひたっている。

◀ 愛車と共に小休止！ズラリ揃ったヤマハの名車！



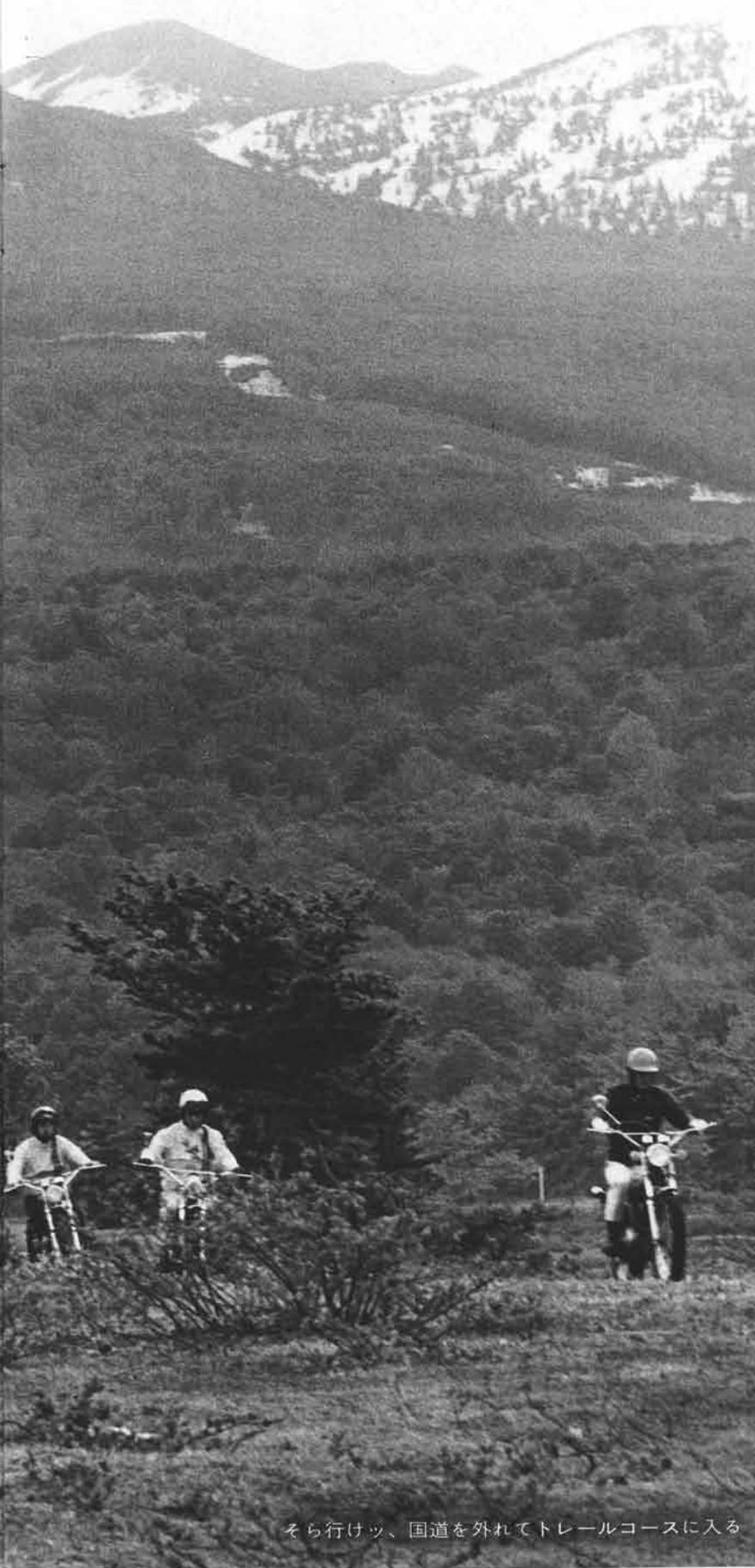
ヤマハが創りだした新しいスポーツ・レジャー
トレール・ランが 人気をあつめています
お店でも トレール車ファンを増大させる
トレール・ランでお客様さまを獲得してください

みちのくの春は遅い。しかし、いったん桜
の花がほころびれば、すぐにリンゴの花が咲
き、一足とびに夏がやってくる。それだけに
シーズンともなれば、ウォーミングアップは
速い。今回のトレール・ランは、そのみちの
くにコースをとり、雪の名所、青森県は八甲
田山を駆け巡ってみた。



高山に、春を告げる“ふきのとう”を手にとり小休止するトレール・ランの一行

夏に雪を求められるのはヤマハトレールだけ——！



そら行けッ、国道を外れてトレールコースに入る

遠乗りの原則は早立ち、早帰り。とくにトレール・ランにおいてはこの原則を守ることが大切。途中どんな秘境？に出喰わすか分からないし、道を失くすことだってあるかも知れない。トレール車ならではの秘境をさぐりあてれば、豪快なライドディングに時の立つのも忘れてしまうかも知れない。

ま、そんなわけで、われわれヤマハ・フレンドの一行は午前八時三十分、青森市をあとにした。行き先は八甲田山。これを林道めあてに一周しようというものである。

初夏を迎えて、日差しは濃く、街では半袖シャツが巾をきかせているというのに、八甲田山は、ところどころにまだ深く雪を残し、青空に映えている。

国道から外れて、林道にトレールコースを求めると、行く手は雪、雪、雪。木々の緑が

初夏をつたえてくれなければ、一瞬、季節感にとまどいを覚える。

軽量にものをいわせて、まずHTTがアタック。表面は固いが、それでもパワーをかけるとすぐにえぐれてもぐりだす。プロツクパターンのトレッドに柔らかい雪がつかまって、ともするとスリッパがち。足をつこうにも、雪の下地形が分からないので、なるべく山側に沿ってスローですすむ。

しかし、慣れるにしたがって次第にスピードアップ。ちよつとしたスリルがあつてこの雪道トレールもなかなか楽しい。

「夏、雪を求められるのはヤマハトレールだけ」の標題もこんなとき浮かんだ。

このあと、南側に出ると、そこはまさに春そのものであつた。ヒバリがさえずり、山桜

もみられる。雑木の緑がことさら野趣をかきたてる。思わず「ヤツホー」の声が出た。林をきりひらいた斜面で、右に左に、HTT、ATV、DTEIが駆け巡る。それはまさにトレール・ラン「ごっこ」といいたいほど愉快で、楽しいライドディングであつた。

西に傾く日を追って、帰途につけば県道は砂利がゴロゴロ。しかもホコリもうもう。互いに人相、車相が一変してしまった。

止むなく、コースを酸ヶ湯温泉に向け大休止をとる。礼儀を重んじ、身だしなみに気を配るヤマハ・マンとあつてはこれは当然のこと。愛車のホコリもきれいにおとし、無事、帰館したのは午後五時のことであつた。因みに酸ヶ湯温泉の入湯料は四十円。湯治客のおじいさん、おばあさんが静かに湯を楽しんでいたことでした。



あたり一面まっ白。ここはまだ冬の世界…



一転して春に遊ぶ。自然を走る楽しさ
ここにあり……だ



ヤア、走った走った。雪溪の下を流れる清水
で顔を洗えば疲れもどこかにふっとぶ感じ



残雪に出会って止むなくスロー走行



講義のあとは、天竜川特設のコースで実技訓練。教える方も、教わる方も真剣そのもの。

きびしい研修会を終えて、上島教室本部長から認定証を授与された。



遠乗り会が活発

〔青森営業所発〕青森市内のヤマハ販売店さんとヤマハ・ユーザーのお客さまを主体とした青森地区初の遠乗り会が5月17日、十和田湖一周の行程で行なわれました。

この日は天候にも恵まれ、また気温もあがり、絶好の遠乗り日和となり、山の緑に、湖水の青さに、遠乗りのダイゴ味を満喫、全車ノートラブルで完走し、本格的シーズンの到来にまた会う日を約して、トレールランド青森を終点に開散しました。

また日を同じくして、ヤマハスポーツ店アサヒモータースの青森アサヒスポーツクラブの面めんも津軽半島の一周に出かけました。戸外のスポーツとして、これからは遠乗り会が各地で行なわれることでしょう。



大分でトレール教室の 県大会を開催

〔九州支店発〕ヤマハ特約店・大分トヨベツト商事さんでは、これまで地域別に行なってきた好評のトレール教室の集大成として県大会を企画、会場を南大分に求め、四月二十六日に実施し、多くの参加者をあつめました。「大分県ヤマハトレール大会」の内容は、いままでの教室の総仕上げとして基本テクニクを復習、その後、九州地区としては珍しいトライアル競技を行ない、つづいてジムカーナ、モトクロスと多彩な催しで午前九時から午後六時までをフルに楽しみました。

会場が国道筋から10分と、地利を得ていたことから観客も多く、PR効果もまた絶大なものがありました。(楠山)



インストラクターの技術は、基本に忠実なものでなければならぬ。



ヤマハトレール教室 第2回 一級インストラクター研修会ひらく

ヤマハトレール教室の一級指導員を養成認定する「第二回インストラクター研修会」が、5月24日、浜松本社のトレール教室本部で開かれました。

全国各地から、人格、経歴、技術ともに折紙つきの42名が参集。荒井市次特別講師はじめ本部講師指導のもとに、座学、実技とびつしりの日程に取組んで、全員合格。「一級インストラクター」の認定を受けました。

この人たちが各地方本部で、さらに二級インストラクターの養成指導にあたるわけですが、2輪走行の基礎技術を普及する「トレール教室」の着実な強化発展が、社会的にも大きな反響を呼んでいます。



完璧なサービス
でシムラ・マップ

〔セブ発〕フィリピンのヤマハ代理店ノルキス社では、70年はヤマハの年として、フィリピン全島においてシムラ・ナンバーワンをめ



猛暑に負けず活躍のヤマハ

〔バンコク発〕こちらはタイのヤマハサービスカーの活躍ぶりです。南部を巡回サービスの折りに、国道でみかけたAT90を止め、小休止がてらに定期点検を実施しました。

このAT90、南国の猛暑の中を連日のようにフル・スピードで飛ばしてピンピン、さすがオートループとサービスマンもいっそう自信をふかめたことでした。



名士マイク・ダッフ、トロント
市長より表彰

カナダの名選手マイク・ダッフのレース界引退はすでに伝えられましたが、彼はいま、ヤマハ代理店フレッド・デリー社の販売担当重役として多忙な日を送っていますが、カナダモーターサイクルスポーツ界への貢献抜群として、このほどトロント市長より表彰され記念品を贈られました。

写真は市長室で神妙な顔をしてゲスト・ブックにサインするダッフ氏。

右は市長代理のマーガレット・キャンベル夫人です。



三気筒
500 C.C.
ヤマハが出現

なんと八〇馬力のハイ・パワー

国際モータースポーツ界にデビューして以来、数多くの勝利によって、「工場レーサーより速い市販レーサー」という定評を得たヤマ



ざして精力的な販売活動を展開しています。写真はそのために用意されたサービスクーの一部で、これにサービス工具や補給パーツをのせて定期巡回を行ない、傘下のヤマハ販売店やユーザーの好評をうけています。

フイリピンは日本と同じ島国ですが、大小なんと七千ちかい島に分かれているためにその苦労はなみだいていものではありません。しかし、意気盛んなノルキス社では、飛行機や船舶を用いてサービスの強行軍をつづけ、大きな成果をあげています。



農林業から工業、レジャーなど、あらゆる用途の動力源として使われ、好評を博している「ヤマハ汎用エンジンMT-100」が、びわ湖スピードランドにおいて行なわれた「ジャパンEXPOカート・ブリ」において上位を独占、鴨田光明選手が優勝を飾った。

「ヤマハ汎用エンジンMT-100」をチューンしたカートが出走したのは一周一キロのコースを五〇周X2のサブ・スタンダードクラスで、合計一〇〇キロのコースを走って一位から五位までを独占した。

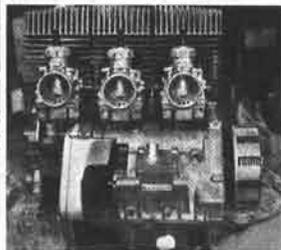
また部外者レースにおいても、「ヤマハ汎用エンジンMT-100」のカートに乗る大森祥吾選手が優勝した。

カートで優勝!

ヤマハ汎用エンジンMT-100



スペシャルヤマハで 500cc級レースにカムバックを狙っているシュルマ氏と80馬力は楽に出すといわれる3気筒ヤマハ



八三五〇cc TR2の五〇〇cc三気筒型が、今年のスポーツ界の話題の一つになっています。三気筒型は、スタンダードのTR2のエンジンをベースにして組立てられたものですが、クランクケース、クランクシャフト、クランクピンの配合が手際よく行なわれ、スタンダードのTR2のエンジンと比べてわずか一・五インチ程度巾広くなっているだけであり、また同じ三気筒型であるカワサキ五〇〇ccより二・五インチもせまくなっています。

制作者は、米国カリフォルニアのエキスパートチューナーであり、加速競技三五〇cc級でSS十一・二秒の記録を保持するD・シュールマさんです。

三気筒型ヤマハは、ベンチテストで出力八十馬力をマークしたといわれていますが、スタンダード型より若干ホイールベースを長くして、堅牢度を向上させたTR2のフレームに搭載されることになっています。(モーターサイクル紙より)



「ヤマハスポーツ店としてこれからもバリバリやりますヨ」と、エネルギッシュな成田さん

青森市橋本2丁目 アサヒモーターズさん

& take + sports
 アンド テイク プラス スポーツ

もちつ、もたれつ、よき仲間

「せっかくオートバイ屋さん勤めているのだから、自分でお店ぐらいいもつたらどうだい——、というお客さんからの話がかっかけで、店舗は世話してくれるし、仲間の大工さんは手直ししてくれる、プリキ屋さんが看板を作ってくれば、塗装屋さんには化粧をしてくれる、ということ、あつという間にお店が出来てしまった。ないものはお金だけでした、ほんと」と、お店のはじまりを話してくださったのはご主人の成田郁久さんです。

以来七年間、アサヒモーターズさんはこのよき仲間たちと、奥さまのすばらしい内助の功のもとに順調な発展をつづけてきています。が、感心させられるのは結束固いグループの互助精神です。グループの間で、これはというお客さまがあれば、まずまっさきにアサヒモーターズさんに紹介されます。それだけに成田さんのグループに対する奉仕も骨身を惜しみません。グループの仲間たちは、それぞれに商売をもっている人が多いので、実際も広いわけですから。そして、成田さん自身も、積極的に仲間の商売のお客さんを紹介し、人間のうちのだれかが、特売セールを行なつて人手が足りないというときなど、応援に出かけたりすることもまあります。

このようなことから、アサヒモーターズさんのお客さまの間では、成田さんに頼めばなんでも間に合うと定評があります。事実、家庭電化製品から衣料品、食料品に至るまでなんでも揃い、廉価で、確実なサービスがあると好評です。一つは親身になって商品購入の相談相手になってくれるのも頼りにされる大きな理由となっているようです。

スポーツに場を広げて前進



クラブの練習場は一周3kmのコースがとれる広大なもの。若い仲間のテクニックにじっと目を注ぐ成田さんの胸にはモトクロス制覇の大きな夢がある。



こいつは調子いい、本調子に仕上がった

よき仲間のアサヒスポーツクラブの嘉瀬会長を囲んでパチリ。会長さんいわく「ヤマハファンの自慢は何年乗ったかです。他のファンでも二台乗るとヤマハに乗換ええす」愛車YA6は二万五千kmをノートラブルで走破。なお絶好調です。



仕事を終わって仲間と専用の練習場へ

こんにちは ヤマハです

give

ギブ

このよき仲間たちがあつまって、アサヒモーターズさんのお店を事務所、青森アサヒスポーツというクラブも出来ています。国鉄に勤める嘉瀬義男さんを会長に、六十人のヤマハファンがそろっています。

仕事を終わった仲間同士が、夜桜見物に弘前まで出かけたのがきっかけとなってこのクラブが出来たのですが、六年目を迎えて和気あいあい。春、夏、秋と年に三回の運動会も年々盛大さを増しています。しかし、遠乗り会での規則はきびしく、ルールにそむいて追越しをかけたたりすると罰金をとられます。またクラブ内だけのライセンスを発行し、無事故無違反の人は表彰されます。

最近、クラブの若い人たちの間でモーターズスポーツに対する人気が高まっており、青森市の郊外にモトクロスの練習場も確保しました。週末には仕事を早目に切りあげて、モトクロスのトレーニングに汗を流したりするのも、成田さんにとっては楽しいひとときです。しかし、クラブ員のマシンの調子を整えたり、ライディングテクニックの相談にのったり、いろいろと大変です。

互助精神はこのクラブ内でも最高に発揮されて、いわゆるお客さまの紹介制度もみんなが応援してくれています。それというのも、車に対してはアサヒモーターズの全力をあげてサービスにたずさわるからでしょう。

「クラブの遠乗会とか、モトクロスのトレーニングなどを見て、よく遊んでいるなんてひやかす人もいますが、オートバイ屋がオートバイで遊ばなきゃどうする、変な遊びをしていたのでは店もたないよ」と答えているんです」と、成田さん。

もっとも盛大な会合は十二月の忘年会で、世話した人も、世話になった人も、互いに商売繁昌を目ざして励まします。

ギブ・アンド・テイク、そしてプラス、スポーツで、アサヒモーターズさんは仲間と共に大きく伸びています。

CYCLE WORLD
 AMERICA'S LEADING MOTORCYCLE ENTHUSIASTS PUBLICATION
 ROAD TEST: Yamaha's sleek new 350/two minicrossers



海外の反響も上々

ヤマハスポーツ三五〇RX

★性能もよそおいても一新された、ヤマハのフルサイズ三五〇ccのロード・スポーツモデルRXは、(外国向けはR5)その強烈な個性が国内のファンに大いに受けています。海外のモーターサイクリストは、このヤマハのニューモデルをどうみているか、テスト記事で定評のある米国の専門誌「サイクルワールド」は、いち早くRXをテストにとりあげ、次のようにその全貌を紹介しています。

〔サイクルワールド〕新着のヤマハニューマシン三五〇RXを一目見て感じるのは、ミドルウェイト級ラインの旧モデルとくらべて、デザイン面でロード・スポーツモデルとしての個性がなお一層強烈にうち出されてきているということであらう。

旧型よりもぐつと車長が短く、重心も低く、軽量で、全体的にはほつそりとしたRXには、このクラスのツイン型モデルによくみられる、またがった時の、いわゆる驚が翼をひろげた感じが全然ない。

クラシックスが狭くなり、排気システムがワンピース構造になって、ヘッドパイプとマフラーの間の見ばえのよくないつぎ目をなくしたこと、エンジン巾が狭くなったために排気管がぐつとたくし上げられてグラウンドクリアランスが増していることなどが、RXのもつ精かん味の源であらう。

外観の一つの大きなアクセントになっている白とワインレッドのカソリンタンクの形状も仲々アイ・キャッチングなもので、これも新型のオイルタンクとサイドカバーにみこと

な調和を示しているが、この方式はRXのビッグブラザー六五〇XS1のそれと同じであることがわかる。

各部の仕上げ状態も、現在市場に出回っている他の如何なるモデルにも劣らぬ最高級の質が確保されている。

アルミニウムシリンダー、ヘッドおよび外側のケースは、深い光沢をもつブラック仕上げであるが、これは放熱効果を高めると共に、エンジン部をひき立たせるといふ両面のメリットを伴っているのである。

フィンの外縁部とケースのより上った部分は磨き上げられて、マシンにどこかクラシックな感じを与えている。

クローム仕上げのフロントフォークは、すんなりという言葉がびつたりあてはまるが、このあたりの感じは、レーサーのそれを思わせるものがある。

セパレート式の回転計、速度計にはラバー・マウントがほどこされ、それぞれ非常にみやすい目盛盤がついているが、指針のはね上り、不明瞭といった欠陥は皆無である。

速度計のトリップメーターはリセット・ノブ付で、このモデルの新しい特色の一つに数えられるものである。

フリクション・ダンパー・ノブのすぐ前にある点燈、照明用のスイッチは極めてアクセシブルであり、またコントロール装置の位置も、操作の簡便性を主眼にして充分な配慮が払われている。

数多くの性能上の改良

ニューモデルRXは、基本的には一九六七年に発表されたライン第一号のYR1と同じ構造をもっているが、そこに加えられた数多くの改良点に注意しなければならぬ。

ヤマハレイアウトの基本特色である一八〇

度のクラシックス・シャフト配置のパラレル・ツイン・エンジンのシリンダーボアとストロークは、以前の二・四×二・三五インチというニヤ・スクエア型から、二・五×二・一二インチとオーバースクエア型になっている。

これは前者の排気量三四八ccから三四七ccと丁度一cc少なくなったことを意味するが、広くなったポートに依りて、表面積を大きくする為の合理的な改良だといえよう。

ポート開閉はピストン作動式で、ヤマハ独特の五番目のポートが、中速トルクの際、および冷却効果の為に素晴らしい威力を発揮する。

プライマリドライブはヘリカルカットギヤによって行われ、オイル供給は五段変速のギヤボックスと共通である。クラッチはトランスミッションのメインシャフト上にあり、アルミニウムケースに収められている。

ダブルクレードル式のハイテンションスチールのフレームは、堅牢そのものであるが、これまたヤマハがその豊富なレース経験を土台にして開発したデザイン様式であり、ユーザーに直接伝える貴重なメリットである。

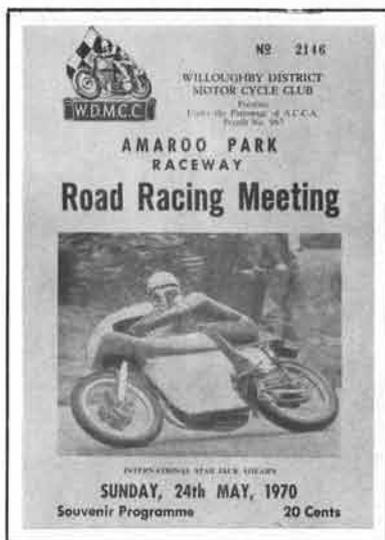
外観はまず第一級、しからばその性能はどうだろうか。

市中のジグザグ運転、時速七十マイル以上のハイウエークルージング、そのいずれをとっても、RXの性能はまさにその外観通り、その強烈な個性は、ミドルウェイト・ロード・スポーツスターのエースの名に恥じないものがある。

五速での迫力は、他の五〇cc級モデル以上のものであり、また中速でのトルクの際に特に印象的である。

このモデルは一口にいって、クイックハンドリングマシンという感じであり、その重心はどっしりと下部に置かれているので、カーブの連続部を走行する際、右に左にせわしなく、またかなり極端にマシンをピッチングさせても、倒れる心配はほとんどない。

タイヤのロードトラクション、前後のサスペンション効果も、RXが高性能を発揮、維



★スポーツシーズンもたけなわですが、選手権ロードレース優勝を始めとして、世界各地のレースでヤマハマシンの活躍が続いています。

最近オーストラリアで催されたクラブマンビッグイベントにも、各クラスにわたってヤマハはめざましい成績を収めました。

〔マツカロッチー オーストラリア〕二年ぶりで使用されたアマロパークのサーキットで五月二四日催されたクラブマンロードレース

ミーテングは、ライトウエイトクラスにナンバーワン、R・トームズがTD2で最高ラップを出して優勝したのを始め、ライトウエイトツーリングクラスにも、A・ハットンのYDS6が優勝、更にジュニアAクラスは、TR2に乗ったヤマハ三ライダーが首位から三位までを独占してしまっ

また日常使用のロードスターとしての性格も大いに強調されているが、エンジン始動はキック一発でOK、ウォーミングアップは一分足らずで充分、三國式酸化器のジェットインクに若干の改良が加えられたおかげで、スロットルを開いた場合の反応は実に迅速で、スムーズである。

ギヤシフトは容易に行われ、ギア比は、出力中に応じて理想的に配分されている。

すべての機能は非常にシンプルであり、モーターサイクルを所有し、そのライディングを楽しむ際のさまざまな種類、さまざまの突飛性といったものはすべて排除され

その他、ジュニアB・Cクラス、無制限Bクラスの優勝もヤマハのライダーがさらい、ヤマハはミーテングの最多勝銘柄になったのである。

一年間で十六万人が受講
ヤマハ交通安全教室の
成果あがる

★新しい二輪車時代を築くヤマハの動向は業界でも注目のマト。とくに積極的な交通安全につくす姿勢は社会的にも大きな反響を呼んで、これからの販売政策に好結果をもたらしています。

〔二輪車新聞〕二輪車業界では日本自動車工業会内に二輪車対策特別委員会を設け、二輪車工業振興策を推進してきており、とくに本年は無免許運転防止に主眼をおいている。

この動きに足なみをそろえて各メーカーとも本年に入ってから安全運転教育の実施に積極的姿勢をみせているが、なかでもヤマハ発動機は昨年一月に開設したヤマハ交通安全教室、トレール教室などで、オートバイの需要開拓に大きい成果をあげ、社会的にも大きな意義をもつ行事として認められている状況にある。とくに最近の大型スポーツ車ブームを

反映して、一般ユーザーから原付車だけでなく自動二輪車の免許教室も開設してほしいとの要請があったことに加え、同社は六月一日から二輪免許教室を開設、順次全国的規模で実施していくことにしたのは需要増大に拍車をかけるものとして期待される。

好評のトレール教室にひきつづいて開設したスポーツ教室は安全で楽しいオートバイ・スポーツを若者間にひろめ、同時にチューニングなどのメカニック教室も実施してユーザーとフレンド店との組織化を推進させることにしている。

またヤマハ交通安全教室は一般ユーザーに安全思想をうえつけることに大きく貢献、とくに原付免許教室およびトレール教室の最近一年間における受講者は十六万人を突破するという成果をおさめ、ヤマハ発動機の意図が一般ユーザーに広く浸透したことは大いに注目される。

新規ユーザーを開拓
需要店との組織化を図る
ヤマハ

二輪車新聞
全国的規模で二輪免許教室も開催へ

（6月号）

更には七三九ドルという価格は、そのすぐれた内容からいって破格の安価である。

外観と共にその性能もすぐれたヤマハスポーツ三五〇RXは、米國ファンの待ち望んだ驚異のクオリティミドルウエイト級モデルであると結論できる。

（6月号）

（6月号）

（6月号）

■ヤマハサービスコーナー■

セールスの方、サービスの方、そして事務の方、お店のみなさんでご覧ください。お客さまを迎えたときの“話のタネ”に絶好です。

タイヤの保守について

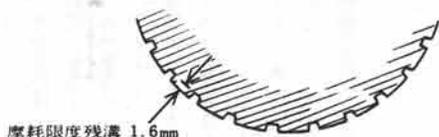
タイヤはエンジンの駆動力を路面に効率よく伝えるとともに、路面からのショックを吸収し、乗り心地をよくする働きをします。そして、車輛の大小、使用目的によっていろいろな形状や大きさのタイヤがつくられているのですが、こと二輪車のお客さまに限らず、タイヤの保守については意外と無関心の方が多ようです。

タイヤの保守は、タイヤの寿命ばかりでなく、操縦性や安定性についても重大な影響をもつものであり、とくに高速走行では安全面において重要な働きをなすものです。

パンク修理や定期点検の際にはタイヤの損耗や異常（亀裂）など、細心の注意をはらって安全確保につとめたいものです。

■摩耗、損傷の点検

タイヤが摩耗していたのでは、スリップを誘発し、きわめて危険です。タイヤ・トレッドの溝が1.6mm以下になりましたら、新しいタイヤと交換しなければなりません。タイヤ・トレッドやサイドウォール（側面）に傷があるような場合も、その程度の差こそあれ交換するに越したことはありません。

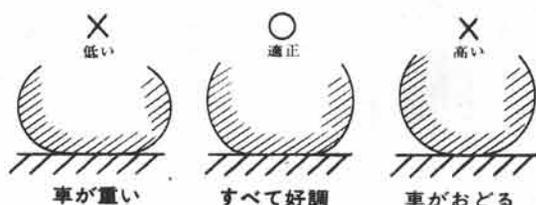


■空気圧の点検

タイヤの保守の第一歩は規定の空気圧を守ることからはじまります。タイヤ空気圧は車の操縦性や安定性、タイヤの摩耗、乗り心地など、あらゆる性能面に影響をおよぼしますので、エヤゲージを用いて、使用条件に適した空気圧で使用することです。

また空気圧の点検と同時にバルブからのエヤ洩れについても注意します。新車時には必ずバルブキャップがついていますが、いつしかこれを失くしてしまうケースが多いよう

ですが、バルブキャップがないと、バルブにゴミが侵入して、エヤ洩れをつくる原因となります。バルブからのエヤ洩れは、ゴミの附着によるもののほか、シールのゴムの劣化による場合がありますが、応急テクニックとしては、シールを果すゴムのリングに、うすくオイルを附着させて取付けると、オイルがゴムをやわらげ、密着性を高めてエヤ洩れを止めます。覚えておいてよいことです。



ハンドルがとられる
タイヤが底つきする
タイヤの両端が異常摩耗
タイヤのコードがさける
タイヤの発熱が異常に高い

タイヤ規定空気圧の例

| | XS1 | R3 | DS6 | CS2E |
|---|---------|---------|---------|---------|
| 前 | 1.6(23) | 1.6(23) | 1.6(23) | 1.7(24) |
| 後 | 2.0(30) | 2.0(30) | 2.0(30) | 2.0(30) |

単位kg/cm², ()内はlb/in²

■ホイールの点検

タイヤが完全に、空気圧が適正であってもリムに振れがあったり、正しく取付けられていないと、ハンドルをとられたり、急ブレーキ時にスリップを起したりします。

リムの振れをとり、ホイールはセンターを正しく取付けましょう。またスポークのゆるみにも気を配る必要があります。

そのほかホイールのバランス調整が行なわれている高速スポーツ車にあっては、タイヤの取外し、交換のとき、ホイール・バランスのくるいの有無に注意しなければなりません。タイヤ組込みの際には、タイヤ側面のペイントマークをリムのバルブ位置に合わせて組込むようにしましょう。

ヤマハセールボート15デラックス レース初出場で優勝を飾る!

YAMAHA-15 DELUXE

全長——4.68 m

全巾——1.72 m

排水量——175 kg

帆面積——12.91 m²



日本ヨット協会主催の第5回ワン・オブ・ア・カインド・レガッタ・レース(O・O・A・K・R)は、5月30日、江の島ヨットハーバー沖で行なわれ、約30艇の各型センターボーダー代表艇が覇を争いました。このレースはいわばヨット界の登竜門といわれるもので、これに優勝することは、ヨットの性能の優秀性を示すものとして、ヨットマンにとっては大きな関心が寄せら

れているものです。

並いる強豪を相手に出場したヤマハセールボート15は、4回のレース総合得点103点というただ一艇のみ100点台の完勝でした。これでヤマハは新製品のデビュー戦での優勝という輝かしい伝統を続けているわけで、今後のヨット界に一大旋風をまき起すことでしょう。

自然を走ろうトレール・ラン

ヤマハが創りだした
オートバイの新しいスポーツレジャー
トレール・ランが人気をあつめています

新しい需要を呼びおこす
トレール・ランを
あなたのお店でもどうぞ



行動する若者たちの間で爆発的な流行を見せはじめたトレール・ラン。親しい仲間たちと野に山に、自然の美しさを求めてのライディングは、まさにオートバイスポーツのだいご味を心ゆくまで満喫させてくれます。トレ

ール・ランはこれから本格的なシーズンを迎えます。高原や湖へのトレール・ランは夏の暑さを忘れさせてくれるでしょう。

ヤマハトレール群はどこへでもお供できるように車種も豊富に揃っています。